

平成30年度医療情報の理解促進に関する研修会のテーマについて

1 概要

都民が医療を受けるに当たり、主体的に選択・判断するための基盤となる医療情報の正しい理解を進め、また、患者(都民)と医療従事者のより良い関係の構築を図るため、医療に関する基本的な知識や関係する制度、適切な受診方法等について説明・助言を行い、医療に関する理解を促進する役割を担う人材を養成する。

2 開催日時 平成31年 1月～3月頃を予定

3 研修会(案)

(1) 患者と医療者の向き合い方～患者がほしい医療情報を正しく伝えるために～

インターネット等の普及で医療情報が氾濫する中、情報を見極める「情報リテラシー」の重要性が増している。氾濫する医療情報の中から、患者さんがほしい情報をわかりやすく伝えるにはどのように対応すればよいか、医療者としての対応方法について、実践的な内容を取り上げ、日常業務で活かせる知識を修得してもらう。

(2) アドバンス・ケア・プランニング(ACP)のすすめ～その人らしく意思決定するために～

昨年度開催した研修会が大変好評だったことから、患者さんの意思が尊重された医療及びケアを提供するためにどのようにアドバンス・ケア・プランニング(ACP)を進めていけばよいか、より実践的な内容を取り上げる。今回は、グループワークも取り入れて、ACPの実践を体験しながら学んでいく内容とする。

(参考:平成25～29年度開催実績)

	開催日時	内容	講師	参加人数
25年度	①11月1日(金) 14時～17時	■医療従事者に知ってほしい介護の知識		118名 (定員120名)
		①患者の説明に役立つ介護の知識	社会福祉法人慈生会 慈生会中野ケアプランセンター管理者 西本裕子 氏	
	②医療と福祉の連携	武蔵野市 健康福祉部地域支援課 課長補佐 伊藤真由美 氏		
②2月12日(水) 14時～17時	■医療コミュニケーション～患者・家族と医療者の良い関係～	奈良県立医科大学健康政策医学講座 助教 岡本左和子 氏	217名 (定員250名)	
26年度	①10月9日(木) 14時～17時	■患者の目線で考える医療コミュニケーション		247名 (定員250名)
		①相談から見える患者のキモチ	医療政策部医療安全課指導係主任	
	②患者・家族の理解と納得につながるコミュニケーション	東京SP(模擬患者)研究会 代表 佐伯 晴子 氏		
②2月13日(金) 14時～17時	■医療従事者に知ってほしい認知症ケアとコミュニケーション		119名 (定員120名)	
	①東京都の認知症施策について	東京都福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課長		
②認知症の人とのコミュニケーション	独立行政法人東京都健康長寿医療センター 看護部看護師長 白取 絹恵 氏			
27年度	①11月25日(水) 15時～17時	■患者・家族との対話の進め方～トラブルにならないために～		134名 (定員120名)
		○医療メデイエーションを活用したコミュニケーションスキル	全国土木建築国民健康保険組合 総合病院 厚生中央病院 院長補佐 荒神 裕之 氏	
②1月28日(木) 14時半～17時	■患者とのコミュニケーション術		199名 (定員250名)	
	○わかりやすい説明の仕方～患者の立場から～	NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子 氏		
28年度	2月15日(水) 15時～17時	■患者・家族とのトラブルを防ぐ		262名 (定員250名)
		○円滑なコミュニケーション	早稲田大学大学院法務研究科教授 和田 仁孝 氏	
29年度	2月14日(水) 15時～17時	■人生の最終段階における医療とケアのあり方		120名 (定員120名)
		○本人・家族とともに考える意思決定	東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部診療部長 三浦 靖彦 氏	